

## 令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果 国立大学法人愛媛大学

### 1 全体評価

愛媛大学は、「愛媛大学憲章」に示す「学生中心の大学」「地域とともに輝く大学」「世界とつながる大学」の実現を目指している。第3期中期目標期間においては、これまでに実施した取組をさらに発展させるために、学長のリーダーシップの下、(1)学生の可能性を育む教育活動の推進(2)特色ある研究拠点の形成と強化(3)グローバルな視野で地域の発展を牽引する人材の育成の3つを重要課題として定め、愛媛大学学生として期待される能力「愛大学生コンピテンシー」を全学生に習得させるために教育環境の整備と学生支援体制の強化を図ること、「地(知)の拠点」としての中核機能を拡充強化すること、多様な研究分野において実績ある研究者グループの組織強化及び新規編成を図り、特色ある研究を推進すること等の基本目標を8つの領域において掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、地域の特性に応じ、県内全域に地域密着型センターを配置し、地域に密着した中核機能を果たすなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

#### 〔戦略性が高く意欲的な目標・計画〕の取組状況について

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 南予地域における新たな地域密着型研究センターとして、西予市に「地域協働センター南予」を設置し、南予地域に共通する課題(人口減少問題、鳥獣害対策、空き家問題、公共交通網維持、柑橘産業等)や、各市町特有な課題に取り組むこととしている。また、地域文化の再評価とそれらの成果の社会への発信によって地域活性化に貢献することを目的として、「地域共創研究センター」「四国遍路・世界の巡礼研究センター」「俳句・書文化研究センター」の3つの地域密着型文系研究センターを設置している。(ユニット「地域産業イノベーションを創出する機能の強化」に関する取組)
- プロテオサイエンスセンター(PROS)において、ヒトプロテインアレイの質的向上及びこれを用いた共同研究並びに持続的活用を目的とした技術開発を進めており、ヒトプロテインアレイの質的向上としては、前年度までに全数合成を達成したヒトプロテインアレイの中でも特に薬剤標的として注目度の高い1,200種類のタンパク質をフォーカスドプロテインアレイとして整備するとともに、持続的活用を目的とした技術開発としては、学長特別強化経費で購入した超高速分注ワークステーションを用いたスクリーニングの低コスト化を検討した結果、アッセイプレートの高密度化(384穴から1,536穴)、反応液量及び使用試薬の少量化(1/6倍)に成功し、ヒトプロテインアレイの試験コストを従来の1回105~120万円から25~30万円へ低コスト化を可能としている。(ユニット「世界をリードする最先端研究拠点の形成・強化」に関する取組)

## 2 項目別評価

## &lt;評価結果の概況&gt;

	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織の戦略的企画機能の強化 ②教育研究組織の見直し ③事務系職員の人事制度と人材育成マネジメント

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ 新たな教員業績評価制度の導入

教員の能力や成果を厳格かつ公正に評価し、その評価結果をより適切に処遇等に反映することを目的として、新たな教員業績評価制度を導入し、その評価の実施に当たっては、新たに愛媛大学教員業績評価システム(E-PAS)を設置し、教員評価資料及び個人業績データベースを含むデータ等を評価に活用するとともに、教員の業績を全学的に一元管理することとしている。

**(2) 財務内容の改善に関する目標**

①自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ 基金活動として整備している「遺贈」の取組**

「遺贈」に係る初の試みとして、将来に繋がる寄附の獲得を目的に「相続・遺贈セミナー」を開催し、学内外から12名が参加している。これらの取組により、累計寄附額が、第3期中期目標期間中の目標額に対する達成率156%となっている。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①自己点検評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理・環境管理 ③法令遵守等 ④学術情報基盤の充実

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

### ○ 地域との連携強化

南予地域における新たな地域密着型研究センターとして、「地域協働センター南予」を設置し、南予地域に共通する課題（人口減少問題、鳥獣害対策、空き家問題、公共交通網維持、柑橘産業等）に加えて、各市町特有な課題にも取り組むこととしている。また、地域文化の再評価とそれらの成果の社会への発信によって地域活性化に貢献することを目的として、「地域共創研究センター」「四国遍路・世界の巡礼研究センター」「俳句・書文化研究センター」の3つの地域密着型文系研究センターを設置している。

### 共同利用・共同研究拠点

#### ○ 発展途上国の環境問題への寄与

沿岸環境科学研究センターでは、59件の共同利用・共同研究を実施しており、そのうちの22件が国際共同研究である。環境破壊が進む発展途上国の研究機関（大学）所属の研究者との国際共同研究も実施しており、環境問題の解決に寄与している。

#### ○ 国際誌におけるヒメダイヤ特集号の発行

地球深部ダイナミクス研究センターでは、Taylor&Francis社の国際誌「High Pressure Research」においてヒメダイヤ特集号を発行し、18編の論文による国際的共同研究の成果発表及びヒメダイヤの特性や応用、その合成手法を用いた新物質の開発に関する新たな学際的研究課題を提示している。

### 附属病院関係

（教育・研究面）

#### ○ 橋渡し研究の推進

先端医療創生センター（TRC）が中心となって、基礎研究と臨床研究との新たな橋渡し研究プロジェクトの立ち上げや推進を支援することにより、株式会社ニコンインステックと契約を結び、顕微鏡のアプリケーション開発の基礎基盤研究を進めるとともに、富士フイルム株式会社と共同で開発した次世代型面検出器CT装置については、心筋血流を定量化・可視化する技術の知財獲得を進めるなど、橋渡し研究を推進している。

（診療面）

#### ○ 臓器・組織移植センターの設置による、移植体制の整備・強化

平成30年度に「臓器・組織移植センター」を設置し、同センターを窓口として各診療科が連携して行った移植実施数は、令和元年度は肝移植7件、腎移植13件、角膜移植78件、羊膜移植23件となり、脳死肝移植実施病院・脳死移植臓器提供の体制を整備・強化している。

(運営面)

○ 働き方改革の推進

平成31年4月からは、36協定の見直しによる時間外労働時間の上限時間の引き上げの実施、医師・教員への専門業務型裁量労働制の導入、大学院生医員の希望に添った勤務を行えるよう、勤務形態の弾力化を図るなど、働き方改革を推進している。